

新田邦光 （1875） 神道修成派教祖。文政十一年十一月五日阿波國美馬郡拜原村生れ、明治二十五年十一月二十五日歿（八元一十九〇二）。舊名竹澤寛二郎。號東洋。弘化、嘉永の頃各地の勤王を説く。岩倉直視の招り札志士として交はし、有栖川宮の進講。慶應二年神祇官御用掛、明治二年官を辭し、改名。六年大講義拜命、また神儒折衷の神道修成派を結成、修成講社を興す。九年教部省より認可せられ管長となる。
 著書に『教道大意』全一冊（門人等脚書、明治八年五月）。一編全一冊・門人等筆記、七年二月。二編全一冊・門人等筆記、八年二月修成講社藏版）、『尊徳心得大意』（木下仁五郎・南條宗村同輯、明治十一年二月山田龜一郎出版）等。安藤加亭・中野安左衛門・樋田瑞秋共編『神道修成派原由略記』（明治十六年六月南場宗村出版）、『新田邦光關係文書目録』（昭和五十六年十一月東京大学法學部近代学法過程研究会「近代学法過程研究会収集文書」）がある。

